



東中学校だより(10) 令和3年11月1日

莞あかくそびえて建てり 校歌の一節より

佐久市立東中学校 〒385-0007 佐久市新子田 1396-1 Tel.67-2392 文責:召田幸司(教頭)



本年度の重点「他者への思いやり」に迫る人権同和教育日間の10月!

スローガン「虹～個性という名の光を集めて～」の白樺祭が終わった後の10月は人権同和教育月間となりました。生徒会長が白樺祭の閉祭式でこんな言葉を語っています。「これから生きていく中で一人では乗り越えることができない壁が立ちはだかることがあると思います。そんな時にこそこの白樺祭の“協力”を思い出して、一人ではなく仲間と“協力”して壁を乗り越えてほしいです」と。人と人が“協力”する上で欠かせないものは何なのでしょう? それが「他者への思いやり」であったり、「他者の立場で物事を考える」ことであったりするのかもしれませんが。

<全校人権同和教育(校長講話) 10/11>



校長先生は全校生徒に次の質問をされました。

「盲導犬入店お断り?」

ある高級レストランでの話です。

ランチタイムで、目の不自由な人が盲導犬を連れて入ってきました。するとあるお客さんから「私は動物アレルギーなので、あの盲導犬を出してほしい」と言われました。そのため店長さんはその目の不自由な方の入店を断りました。

店長さんの行為をどう思いますか?

「理解できる」から「理解できない」まで全校生徒の考えは割れました。最後に校長先生は「キレイごとではなく、自分のこととして、いろんな角度から考えてみよう!」と語られました。

<1学年「すごろくトークン」>

◇今日、総合の時間に人権の学習をしました。今日はすごろくを使って、出たマス目の質問に答えるというゲーム方式でした。楽しく学ぶ事ができました!



このすごろくをやったことで、今まで知らなかった友達の長所を知ることができたので、すごろくをやる前よりも、班の仲が深まったように感じました。

<2学年「風評被害(東日本大震災)」>

◇周りの人が言っていることに流され過ぎず実際に自分が見たこと、聞いたことを信じていきたいと思いました。周りが言っているその人のことにとらわれて、知ろうとしないのではなく、周りにとらわれず知ろうとすることが大切だと思いました。自分のことをちゃんと相手に伝えることも大切だと思いました。



<3学年「ドキュメンタリー『結婚』」>

日本国憲法第24条には「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない」とあります。しかしドキュメンタリーの中の小林さん夫妻は、周囲の人々からの心ない差別発言を受け、何度も傷ついていきます。…

◇差別を受けて、それに悩んで、結婚したいのに難しく、思い出すだけでもつらい気持ちになってしまうほど大変だったんだなあと考えると、そんな世の中があってはいけないと感じました。差別もいじめも周りで起こっていたら、された側の気持ちになって自分が何をすべきか考えられるようになります。

◇偏見や間違っている知識で物事を判断してしまったから、みんなが悲しくつらい気持ちになってしまって、私も悲しくなりました。差別というものは、怖くてみんなが理解して無くそうと思わないと消えるものではないと思いました。私たちも差別をなくせるようにこれからも意識して考え行動していきたいです。がんばります。

